

## 浸透固化処理工法で改良された地盤の液状化抵抗

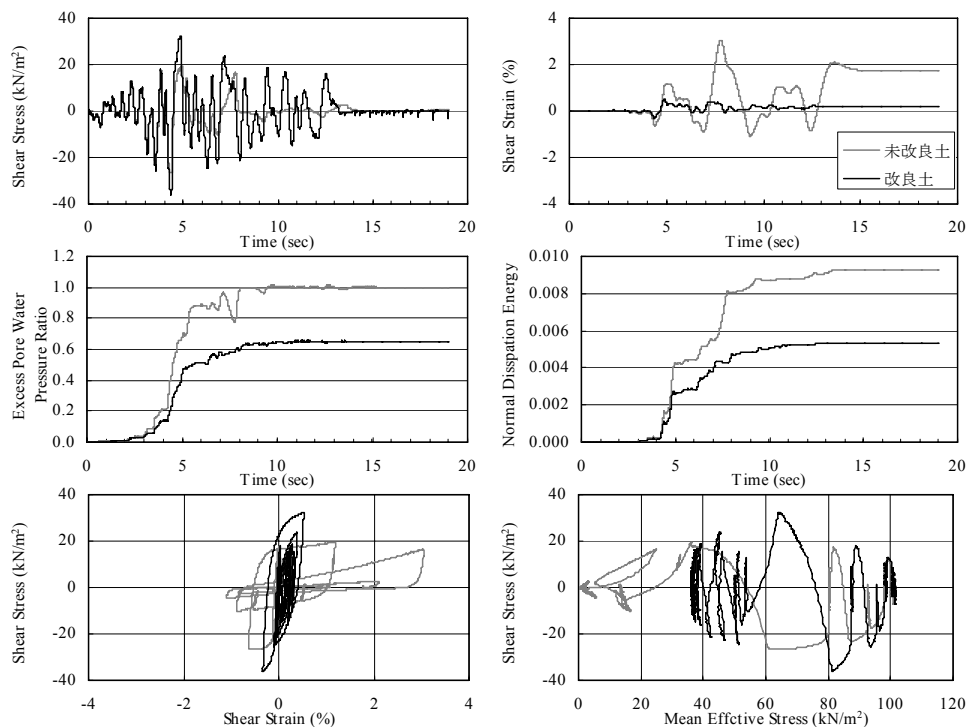
河村 健輔<sup>1)</sup>, 風間 基樹<sup>3)</sup>, 渦岡 良介<sup>3)</sup>, 仙頭 紀明<sup>3)</sup>, 鈴木 崇<sup>3)</sup>, 大島 貴充<sup>2)</sup>

### Liquefaction Resistance of Ground Improved by Permeable Grouting Method

Kensuke Kawamura<sup>1)</sup>, Motoki Kazama<sup>3)</sup>, Ryosuke Uzuoka<sup>3)</sup>, Noriaki Sento<sup>3)</sup>, Takashi Suzuki<sup>3)</sup> and Takamitsu Oshima<sup>2)</sup>

#### ■ 要 旨 ■

浸透固化改良土の液状化抵抗性および残留変形を確認するために、定ひずみ繰返し非排水三軸試験およびオンライン実験を実施した。実験では、規則波や実際の地震動のような不規則波を繰返し載荷した。また、繰返し載荷後の過剰間隙水圧消散過程の再圧密試験を実施した。結果として、低強度  $q_u=30\text{N/m}^2$  の改良土でも、液状化は発生せず、改良土は、未改良土と比較して大きな累積損失エネルギーを蓄えることができることが確認できた。これは、改良土が靱性を有しているためと考えられる。再圧密試験では、改良土は未改良土の 60%以下の体積変化量であった。本研究により、改良土の繰返し載荷による変形特性が定量的に評価できた。



未改良土と改良土の繰返し載荷時のせん断挙動(八戸波)

1) 技術研究所  
2) 本社 土木設計部  
3) 東北大学 大学院

\* Satellite Conference on Recent Developments in Earthquake Geotechnical Engineering(2005), TC4, ISSMGE 掲載